

令和 7 年

第 7 回教育委員会会議録

(開会 令和 7 年 6 月 26 日)

(閉会 令和 7 年 6 月 26 日)

岐阜県可児市教育委員会

令和7年6月26日午前9時00分開会

会場：市役所4階第3会議室

出席委員

堀部好彦君（教育長）

梶田知靖君（教育委員）

長井知子君（教育委員）

伊藤小百合君（教育委員）

小栗照代君（教育委員）

説明のために出席した者

水野伸治君（事務局長）

木村正男君（学校教育課長）

石黒智子君（教育研究所主任指導主事）

青木裕介君（教育研究所指導主事）

下園芳明君（教育総務課長）

後藤道広君（学校給食センター所長）

古野 寿君（学校教育課指導主事）

只腰知子君（学校教育課学校支援係長）

出席委員会事務局職員

木村雄大君（教育総務課総務係長）

伊藤師啓君（教育総務課総務係）

日程及び審議結果

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長報告

4 教育委員報告

5 議 事

①議案第14号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について

6 報告事項

①令和6年度学校給食費の収納状況について

7 各課所管事項

8 委員からの提案協議事項

9 その他

10 閉 会

開会の宣告

- 教育長（堀部好彦君） おはようございます。

これから令和 7 年第 7 回教育委員会会議を開催させていただきます。

定足数につきましては、出席委員が過半数を満たしておりますので、この会議は成立するということでよろしくお願いします。

前回会議録の承認

- 教育長（堀部好彦君） 前回の会議録の承認について。
- 教育総務課長（下園芳明君） 前回の会議録に変更はございません。以上です。
- 教育長（堀部好彦君） 変更はなしということで、よろしくお願いします。

教育長報告

- 教育長（堀部好彦君） 教育長報告でございます。

3 点お願いをします。

1 点目ですが、5 月 31 日、NPO 法人可児市国際交流協会の通常総会がフレビアで行われました。来賓挨拶ということで、冒頭挨拶をさせていただきました。その挨拶の中身を皆さんにもお伝えをしたいと思いますので、よろしくお願いします。

挨拶の冒頭は、フレビアが日頃、多文化共生、そして外国人の方々の自立、子供も大人も含めて、そういったことに大変御尽力されているということについての感謝と敬意をお伝えさせていただきました。

続いて、私が今渡南小学校校長のときに出会った外国籍の子供 2 人のことを紹介しました。1 人は 4 年生の男の子でした。当時、フレビアが主催でやっておりました日本語作文コンテストというのがありまして、外国籍の子供たちが日本でどんな気持ちで頑張っているのかということが伝わるような、そんな作文を募って、優秀作品を表彰する取り組みがありまして、当時今渡南小学校の 4 年生の子の作文が優秀な作文のうちの一つということで取り上げられたことがありました。学校の授業を頑張っている気持ちを伝えていたんですけども、その作文を私は学校のお昼の放送等で紹介をしながら、外国籍の子供たちの努力を広めていたわけです。そうしたら、その男の子、そのことがきっかけか分からないんですが、気分はいいですね。自分が褒められたということで、とても自己肯定感が増したんだと思うんですけども、その子がこんなことを始めました。翌年なんですけど、新 1 年生の外国籍の子、特に英語圏の子です。その子は英語圏の子だったので、4 年生の子は、そのときは 5 年生になったのかな。英語圏の子だったんだけど、朝の会の前だとか昼休みなどに 1 人でその子は 1 年生のところに行って、英語圏の子といろいろお話をするようになった。何でかという、1 年生で上がってくる子はばら教室にも行っていないので、きっといろいろな不安があるだろうと。言葉もよく分からない子もいるのではないかとということで、話し相手になっていたんですね。何とすばらしい、思いやりだなと。共感性というか、私が目指す子供像、まさにこの子なんじゃないかということも思ったものですから、翌年のその子の姿をまた職員や子供たちに広げたことがありました。

なぜこのことをフレビアでお話をしたのかということですが、これまで外国籍の子供たちに希望の光をとということではばら教室はじめ、フレビアはじめいろいろな支援をしてきていますが、今や外国籍の子供たちが希望の光になるんじゃないかと私はそのときに思いました。つまり、こんなにも人の苦しさや困り感に共感をして行動が起こせる、こんなすばらしい外国籍の子が可児市にはいるんだよと。そんな生き方見習いたいよねという憧れになるんじゃないかと私は思って、そういった子たちに、外国籍の子たちに希望の光が、その子たちが今やもう希望の光になる、そんな子が出てきているんじゃないかとその頃感じた、そのことをフレビアの方々にお伝えをしたかったんです。

もう一つ、6年生の女の子の事例をお話ししました。漢字ドリルや計算ドリルや、物すごく家で勉強、学校での勉強だけじゃなくて家でも一生懸命やっていた。そのときの6年生の子ってなかなか難しい子がいっぱいいて、九九もなかなか覚えていないという子がいたりとか、学力がちょっと例年の6年生に比べて低くて、何か学習、学ぶということから逃げている子がいっぱいいたんです。その子たちに何とか、僕は中学校に向けて学ぶ意欲を高めてあげたいと、担任と一緒に考えたものがあつたんですけれども、その子を取り上げようと僕は思いました。

何でそんなに頑張っているのと。日本語が分からないから、勉強が分からないからということに加えて、その子に何でそんなに頑張っているのと聞くと、自主学習のノートにびっしり書いてあるわけだね。何で頑張るのと言ったら、高校に行きたいからだ。高校に行くことが、外国籍人にとっては本当に日本で生きていくことのもう最初の大きな関門になってくるのかなと思ったときに、彼女はそういう覚悟を持って頑張ろうとしていた。それをあのときの6年生の子たちにうまいこと伝えなければいけないということで、いろいろ計画をして、6年生を集めて僕が話し、学級担任が話しということをしました。そうしたら、その子たち少し心が揺さぶられたようで、昼休みに勉強会をやるから来たい人おいでよと僕が言ったら、たくさんの子が昼休みに勉強しに来ました。九九が分からない子も含めて。フリーの先生とか、いろいろな先生が協力をしてくださって、しばらくそんな取組を続けたことがありました。それも紹介しながら、あのときはその6年生の女の子が、日本人の子たちの希望の光になったんじゃないかと思いました。

そのことをお話ししながら、フレビアがやっている外国人の方々の自立に向けた取組を私としてはそのように捉えながら、教育現場で頑張っていきたいと思いますと伝えたわけです。

その一環として、僕はばら教室の修了式で時々お邪魔をして話をするのですが、このような話をします。

外国籍の子供たちに希望の光をとということとともに、外国人の子たちが希望の光になるようなことを考えてほしいということ、参列してくださる校長や担任の先生にお伝えをしています。ばら教室の修了式では、一人一人が学校に向けての学校に向かう気持ちを、決意を述べている。その中に、本当に日本で生きていく覚悟を感じる語りをしてくれる子もいるんだけど、特にそういった語りをした子の学校の先生方には、この子から学ぶことが、日本人の子が学ぶことっていっぱいあると思うので、この子はそういった希望の光になるようによろしくお願いしますということを修了式の来賓の挨拶でさせていただくことがあります。そのことをフレビアでもお話をしたということで御承知

おきください。これが1点目です。

2点目は、6月14日、少年の主張大会が今年も行われました。梶田委員と木村課長、大変お疲れさまでした。

審査員として、大変これ難しかっただろうと思ったのですが、毎年そう思うのですが、そこで感じたことを簡単に申し上げます。

この発表の中身というのは、時代を映す鏡だなと思いました。例えば題名で4つ紹介しますが、「多文化共生のまちを目指して」「性の多様性が受け入れられる社会へ」「要介護、高齢者の方々が住みやすい社会に」「精神疾患に正しい理解を」と少し列記しただけでも、今の時代を反映している、そんなことを感じます。中学生がこの時代の空気を読みながら、空気に触れながら、空気にどっぷりつかりながら自分を見詰め、将来を見詰め、日本を見詰めているのかなと思っています。そんなことを感じたものですから、担当の事務局の方をお願いを1つしました。というのは、これ歴史のある主張大会だと思いますので、今残っている一番古い、一番古い大会冊子、つまり大会の原稿ですよ、何年前かは分かりませんが、その原稿をちょっと見せてください、急ぎませんのでということをお願いしました。きっとその時代の反映した、その時代を反映した子供の見詰めが味わえるんじゃないかなあなんて思っています。また、紹介できたら紹介させてください。

それから、3つ目です。

教育委員学校訪問も本当にお疲れさまです。我々も可茂教育事務所の所長はじめ、事務所の訪問に同行させていただいて学校訪問を続けております。子供たちのよい姿、先生方の頑張りが感じられて本当にうれしく思うわけですが、その中で校長の学校経営方針の説明の中に、本市の教育の根底、子供の命を守ることについて触れてお話をしてくださる方がいらっしやいまして、これも大変うれしく思っています。

今年は3行付け加えました。この子供の命を守ることについて説明をさせていただきました。また、一人一人が自分の命を見詰め、ありのままの自分を尊重し、自信を持って生活できるよう支えますと。不登校や希死念慮を抱える子供たちへのメッセージでもあると。ありのままの自分を受け入れる、そういった自己肯定感を育む教育を頑張らしようということを伝えているわけですが、例えば命の教育ということで、自分の命に関わる教育、命の誕生だとか、赤ちゃん体験だとかいうようなことを通してやるんじゃないでしょうかということをお伝えしているところです。

これから紹介したい命の教育ですが、沖縄県の命の教育です。皆さん、どう思われるでしょうか。

中日新聞の記事にも取り上げられていたのですが、沖縄慰霊の日、沖縄全戦没者追悼式が6月23日に沖縄県で行われました。その中で小学生が平和の詩を、自分がつくった詩を語ってくれました。私はその生中継を偶然見たんですが、引き込まれて、本当に聞き入ってしまいました。6年生の子の作文、詩です。この詩は、沖縄県で全員に書かせているそうです、子供たちに。その中から選ばれたものだそうです。

この子、男の子、眼鏡をはめた男の子ですが、時々顔をゆがめながら、これは涙を我慢しているのか分かりませんが、顔をゆがめながら語る姿は本当に印象的でした。時間を取って申し訳ないですが、読ませてください。

おばあちゃんの歌。

毎年、僕と弟は慰霊の日におばあちゃんの家に行って、仏壇に手を合わせウートー一をする。

1年に1度だけおばあちゃんが歌う。「空襲警報聞こえてきたら、今は僕たち小さいから、大人の言うことを聞いて、慌てないで、騒がないで、落ち着いて、入っていました、防空ごう」5歳のときに習ったのに、80年後の今でも覚えている。笑顔で歌っているから、楽しい歌だと思っていた。僕は5歳のときに習った歌なんて覚えていない。ビデオの中の僕はあんなに楽しそうに踊りながら歌っているのに。

1年に1度だけ、おばあちゃんが歌う。「うんじゅん わんにん 艦砲ぬ くえーぬ くさー」泣きながら歌っているから悲しい歌だと分かっていた。

歌った後に「あの戦のときに死んでおけばよかった」と言うから僕も泣きなくなった。沖縄戦の激しい艦砲射撃でけがをして生き残った人のことを「艦砲射撃の食べ残し」ということを知って悲しくなった。

おばあちゃんの家族は、戦争が終わっていることも知らず、防空ごうに隠れていた。戦車に乗ったアメリカ兵に「デテコイ」と言われたが、戦車でひき殺されると思い出で行かなかった。手りゅう弾をごうの中に投げられ、おばあちゃんは左の太もものに大けがをした。ウジが湧いて何度も皮が剥がれるから、アメリカ軍の病院で、けがをしていない右の太ももの皮を剥いで、皮膚移植をして何とか助かった。でも、大きな傷痕が残った。傷のことを誰にも言えず、先生に叱られても、傷が見える体育着に着替えることができず、学生時代は苦しんでいた。

5歳のおばあちゃんが防空ごうでの歌を歌い、「艦砲射撃の食べ残し」と言われても、生きてくれて本当によかったと思った。おばあちゃんに、生きていてくれて本当にありがとうと伝えようと、両手で僕のほっぺを触って、「生き延びたかとう ぬちぬ ちるがたん」生き延びたから命がつながったんだねとおばあちゃんが言った。

80年前の戦争で、おばあちゃんは心と体に大きな傷を負った。その傷は何十年たっても消えない。人の命を奪い苦しめる戦争を二度と起こさないように、おばあちゃんから聞いた戦争の話を伝え続けていく。おばあちゃんがつないでくれた命を大切にして、一生懸命に生きていく。

こんな語りをさせる文章を作らせる沖縄の教育というのはすごいと思うし、戦争の罪深さを改めて思うわけですが、ここで平和ということについてもいろいろ考えるところがあるんですけども、あえてこの命の教育というところで私はこれを読みました。

私たちは、一人一人が自身の命を見詰め、ありのままの自分を尊重して、今のままの自分でいいんだよという、そういったところで命を見詰めているんだけど、そういった教育をとということを今年言っているんですが、この詩が私、この詩から感じることは、本当にこの強く生きていく、一生懸命に生きていくというこの決意を、もう11歳の子ができるなんていうのは本当にすごいと思って、大変私としては触発されています。

ということで、私からの報告を終わりたいと思います。ありがとうございました。

教育委員報告

○ 教育長（堀部好彦君） それでは、教育委員報告に入ります。

○ **教育委員（伊藤小百合君）** おはようございます。よろしくお願いいたします。

学校訪問に行ってきました。6月23日に蘇南中学校、春里小学校、東可児中学校、25日に東明小学校と桜ヶ丘小学校に行きました。

蘇南中学校で校内教育支援センターを初めて見せていただきまして、すごく勉強になったんですけども、一人一人が選択できるような授業内容だとかがきちんと用意されていて、本当にその子その子に合ったものができる、その子供は選択ができるようになっていて、何かすごい、特にあそこは人数が多い学校なので、そのように一人一人に寄り添うのは大変だとは思いますが、そういうのが少しずつつくられてきて、なかなか行きたくても学校に行けない子の、そういう場が学校の中にあるというのはすばらしいことだなと感じて見してきました。

学校の中にあるので、ちょっと自分が教室に入ってみようかなと思ったときにも行けるシステムになっていて、行けない子でもリモートでクラスの子と一緒に授業を受けるというのも、すごく今までにはちょっと考えられなかったことがありまして、タブレットが入ったことで、子供たちによりよくなってきているのかなと、これが今後も少しずつ積み重なって行って、その子の糧になっていけばいいなと感じて見せていただきました。

あと、国際教室も見せていただいたんですけども、数が一般の何教室かあったんですけども、すごく母語を大切に授業をされていて、単語でももちろん教えているんですけども、日本語がしゃべれるから日本語が分かるというのは違って、すごく数学だったりとか考えなければいけないことを母語でうまく理解していくことがすごく必要なんだなということを改めて感じまして、やっぱり学校の規模が大きくて、特に蘇南中学校は外国籍の子が多いから、通訳の方たちもたくさん入ってみえるのでそれが可能である。ほかの少ししかない、あと国際教室がない学校はそれがちょっと難しいんですけども、そういう点では恵まれていて、一人一人に寄り添って指導されていたので、こういう勉強の仕方もあるって、ほかのいわゆる国際教室のない学校の子供もそういう場所で受けられる機会があったらいいなというのを少し思いました。

あと、ほかの学校を回ったときに、2校ぐらいいちちょっと気になったことがありまして、先生が授業をしているときに、少し先生の言葉というか、説明が不十分だったりとか間違ったときがあったんですけども、それも先生が普通に間違っているということを確認して、ごめんごめんと謝ったりとかして、それを受け入れて、そのうちに次に正しいことを指導していくという場面を見ることがありました。それがすごく印象的で、そういう何げない普通の光景が、子供たちが自分たちが間違った、その授業に関わらずなんですけど、間違ったことによって謝れるというものを生み出しているんだなというのを感じて、そのまま、そういうのもすごくいいことだなと思って見してきました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

伊藤委員、学ぶということについていろいろな視点からお話をしてくださったと思うんですけども、今、3つ目のお話の間違いを認めていくということの大切さ、教師自らごめんと言うという、これは子供たちにとってもよいこともあるだろうと思います。

あと、校内教育支援センターについても勉強していただいてありがとうございます。可児市の不登校対策の合い言葉がありました。以前、リーフレットでお見せして、これ

が可児市の不登校対策の合い言葉ですよということの話をしたのが何だったかということ、多様な学びの場を提供しますよという。多様な学びの場のうちの一つに、新たに校内教育支援センターを今少しずつ広めていこうということで、蘇南中学校、中部中学校で取っかかりということ、今後少しずつ増やしていこうということなんですよけれども。

校内教育支援センターの意味というのはいろいろな意味があるんだろうけれど、多様性ということを考えてときに、フレビアとは、フレビアも勉強していましたね。フレビアも勉強しているんだけど、何が違うのか。フレビアと校内教育支援センターという見方をしていくと、同じじゃない、多様なんだよということが出てくるんだけど、例えば私が何が違うのかと言われれば、フレビアは学校に行けなくなっている子が行くんだろうなと。学校は行かないという選択をしている子も、最初から行かない、ここに行くんだというように、行けない、行かない。とにかく、学校には行っていない子が行くところかなと。校内教育支援センターは、学校に行っているんですよ。ということは、教室にいずれ戻る、戻すというようなこともある程度意図した、つまり不登校の未然防止にもなっているところかなと思っています。

そして、あともう一つ、とても大切なお話をしてくださいましたが、外国籍児童・生徒への学習で大切にしなければいけないことのうちの一つとして、バイリンガルの子たちは日本語、日本語、日本語で、日本に来たんだから日本語をということとやるということよりも、両方、母語と日本語と両方を勉強したほうが学力が身につくという、そういったエビデンスもあると聞いています。その辺りのお話かなと思って聞いておりました。ありがとうございました。

○ 教育委員（梶田知靖君） おはようございます。

私も6月14日に少年の主張可児市大会に審査員として初めて出席をさせていただきました。発表もすばらしい作品ばかりで、木村課長と楽屋で審査をしておりましたけど、難しかったですよね、本当に。

どれもすばらしい作品ばかりで、その中でも最優秀作品を今年度取られたのは中部中学校の生徒で、教育長が冒頭にもお話しされたとおり、多文化共生のまちを目指してという作品が今年度は最優秀作品に選ばれたんですよけれども、まさに今の可児市の現状が分かる発表でして、さっきも僕、4階に今日上がってくるときに、エレベーターで外国籍の方とちょっと一緒になったんですけど、納税って何階と聞いてきて、最初その方は4階を押されていて、僕もちょっとすぐ分からなかったんでエレベーターの中にある文字盤を見て、2階だったので2階ですよと伝えたら、ありがとうございますと軽く返してくれました。教育長もお車好きなので、僕も車たまに洗ったりしに行く結構外国籍の方たちとか見えるんですけど、しゃべると結構気さくに話してくださるというか、いろいろ交流ができるので、可児市は今本当に多文化共生のまちかなと感じております。

それから、6月23日に学校訪問で蘇南中学校へお伺いして、まず最初に佐野校長からお話をいただいたんですけど、とても楽しそうにお話しさせていただきました。学校でこういう資料いただいたんですけど、写真つきの資料で、朝の登校するときに急な雨が降って、生徒が傘がなくて濡れてしまうような場面で、学校の先生が傘をそっと差し伸べるような写真ですとか、登校前に学校の校庭を掃除している先生に駆け寄ってきて、生徒と一緒に掃除をするという場面もあるようで、その中にも外国籍の子たちが

結構多いというお話も聞かせていただきました。

あとは、先日、少年の主張の日に夏祭りがありましたが、その翌日に蘇南中学校のボランティアの子たちが、いつもの蘇南ブルーのジャージを着てボランティアをしたというお話も聞かせていただきました。

その後、伊藤委員と同じような話になりますが、校内教育支援センターと国際教室も見学をさせていただきました。その国際教室の講師の方が、今回、少年の主張大会で最優秀を取られた多文化共生のまちを目指して、を取られた子のお母様が国際教室で教えていらっしかったです。

○ **教育長（堀部好彦君）** ああ、すごいですね。

○ **教育委員（梶田知靖君）** 本当に蘇南中学校、今1,055人で、教職員の方が101人でスタートしたということなんですけれども、4月に入って1人ちょっと病欠であったりとか、5人程度病欠であったり産休に入るといって、補充もあつたりするんですけれども、本当にぎりぎりなところで今、学校運営がされているということをお聞きしました。来年には1,100名になるということもお聞きして、教室も足りるのかなという心配をしていらっしかったです。

令和9年度以降、お子さんが減少傾向にあるということを以前の会議でもいろいろお聞きはしているんですけれども、やはり外国籍の子たちがこれからどんどん増えていくんじゃないかということもありまして、今後も可児市教育委員会としても、そういった面でも考えていかないといけないのかなと思いました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

少年の主張大会の最優秀の子のお話をしてくださりましたが、お母さんも勤められたということで、国際教室に。そういった親を見ながら育まれているところもあるんだろうと思いました。

今の紹介をいただいた学校の窮状を教育委員会としてどう支えていこうかというのは常に考え続けて、木村課長も頭を悩ませているところなんですけれども、常に考え続けているということで、学校教育課特によくやってくださっていると思っています。ありがとうございます。

○ **教育委員（小栗照代君）** おはようございます。

私も6月23日と25日に学校訪問を5校させていただきました。

皆さんの御報告されました蘇南中学校ですけれども、やっぱり先生不足ということをおっしゃってまして、校長はほかにも授業にかなり出ていらっしゃるということで、本当にいっぱいいっぱいだというお話をお伺いしました。

それから、東可児中学校なんですけれども、大変校長のお人柄の分かる、明るくて気さくな大変いい雰囲気だなと思ったんですけれども、いろいろとお伺いした後に、お困り事ないですかとお伺いをしましたら、それではということで校長がおっしゃったことがあるんですけど、それをちょっとお伝えさせていただこうと思います。

では、要望というよりは御提案というか、そういったことでお話ししてくださったんですけれども、4月の始業開始をもう少し遅らせてほしいというお話がありました。どうしてかと言いますと、新学期の準備にすごく時間がかかるんですけれども、本当にタイトなスケジュールでやっているということで、それは本当に先生方大変だなと思うん

ですけれども、例えば新学期の準備で新人の先生たちについているときのお話をしてくださっていたんですけれども、一般の会社の新入社員というのは、入ってから研修があって徐々に覚えていくということになるんですが、学校の先生はいきなりもう配属されたらまず新学期の準備をしなければいけないということで、一番1年間でかなり大変なところを一番最初にしなければいけないということで、それにより大変つらかったり大変だったということになって、そういったイメージからだんだん病んでいったり辞めていったりというところにつながっているのではというお話でございました。

それから、梅田主任からも同じ御提案がありまして、最初のときに新学期の準備だけに追われてしまって、学校のことを伝える時間が全くないと。学校の方向性であったり、生徒はこういう感じだよとか、方針みたいなものは本当にしっかりとお伝えする時間がないので、できれば4月10日にスタートにしてほしいけれども、そこまでは言えないけど、一日でも遅くしていただけないかなというお話がございました。それにプラスして、校長が、夏休みも8月31日までにしてほしいし、できればクリスマスは休みたいとおっしゃっていました。

それから、もう一つ御提案がありましたのが、関市の桜学館のような施設を可児市にも造れないかというお話がありました。今も不登校だったり、いろいろ問題のある子供たちに対してかなり可児市は手厚くしていると思うんですけど、医療面について少し頼るところがほしいというお話でして、そういう面で桜学館を利用させていただいているので、そういった施設が可児市にできないかなというお話がございました。

続いて、東明小学校です。こちらも担当校なのでお話しさせていただきますけれども、5月にお伺いしたときに、校長と実は授業中にお話をさせていただいて、そのときに口頭で、まず最初に聴く力というのが大事だよという話をもう子供たちにしっかりと伝えていきますよなんてことをおっしゃっていて、昨日も学校の方針というのをしっかりと決めてお伝えくださいました。

それから、プールなんですけれども、今年プールに入れているんですけれども、やはり外注化をしていきたいので立候補お願いしますと伝えてくださいということだったので、ここでお伝えさせていただきたいと思います。

コロナの影響についてどうですかという話をプールについてしましたら、やはり最初の頃にプールにコロナで入れなかった子供たちもだんだん泳げるようになってきたんですけど、その数年間にやっぱり泳がなかったということは、影響ははっきりとありますということをおっしゃっていました。プールを習っている子は別なんですけど、習っていない子の泳ぐ力というのはやっぱり違うということをおっしゃっていました。

続いて、桜ヶ丘小学校、こちらも担当校なんですけれども、まずスマイリングルームの話をされました。不登校の子はそんなに多くはないんですけれども、スマイリングルームを利用している子の一人が、社会のテストが100点だったと。それにより自己肯定感も多分高くなってきたんでしょうか、学校のほうにも行けるかなというお話もできているということで、そのスマイリングルームに行かせていただいていることは大変ありがたいことだというお話を伺いました。

それから、各校でもタブレットが新しくなって大変使いやすいというお話も伺っていたんですけれども、例えば相談室に行っている子供たちでも宿題が何か iPad で分

かると。だから、人とコミュニケーションを取らなくても、その宿題を見て、自分で宿題をやっ払いこうとか、例えばこの授業は出てみようとか、そういったことが分かるので、i P a dが大変役立っているというお話をお伺いしました。

それから、今、大規模改修工事をしている件についてなんですけれども、やはりきれいになったところも拝見させていただきまして、古いところも拝見をさせていただいたんですけれども、そういった中で皆さんいろいろと工夫をしながら、きれいに全部出来上がるのを待って耐えていただいているなというのは思います。

その中で、キャリア教育のお話が出たんですけれども、工事をしていらっしゃる方に子供たちが興味があるということで、インタビューをさせていただくことになったそうなんです。子供たちがその方にインタビューをして、工事で働いている方のことであつたりとか、外国籍の方も働いていらっしゃるので、そういう方のことであつたりとか、それから現場で働かなくて設計みたいな仕事もあるというようなこともお話をしてくださって、インタビューをした子供たちが、僕はじゃあ設計のほうに興味持っているとかが言つたみたいで、そういった意味でも、工事でするさいとか狭いとか、そういうこともあるんですけど、人を知ったり、国籍を知ったり、仕事を知ったりということで、いいところもあったというお話でした。

それから、校長が今回の改修についていろいろとアイデアを出してくださっているということを初めてちゃんと知つたんですけど、例えば教室をホワイトボードにしたりとか、ロッカー、ランドセル置けるロッカーがすごい大きいんですね。広くなつていて、そういったことを御提案してくださつたりとか、あと階段の一番上と一番下のところにラインを引いて、フロアと階段の差が分かるので、そこで一番けがが多いそうなんです。そこに色をつけるようにしたりとか、階段の階段室のところを廊下とは違う色にしたりとか、あとは理科室を明るくしたいということで明るい色を取り入れたり、家庭科室の机の角を円くしてけがしないようにというようなことであつたりというので、いろいろな御提案をして生かしていただいているというお話をお伺いしました。

校長のその視点が大変すばらしいな、子供目線ですいつも考えてくださっているんだなというのをすばらしいと思つたと同時に、こういったことも今後の改修に生かしていただいて、どんどん子供たちに過ごしやすいような施設の施設づくりに生かしていけるのではないかと思います。以上です。

○ 教育長（堀部好彦君） ありがとうございます。

訪問を通して、校長と本当にいろいろなこととお話ししておられるんだなあということを改めて思つたんですけれども、よい関係をつくつてくださっているということのあかしかなと思います。まずもつて御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

それと、今、興味深く聞かせていただいたんですけれども、キャリア教育で工事の桜ヶ丘小学校の改修工事に携わつておられる企業の方々の姿を、子供たちにその姿から学ばせるということでしょうね。私も何回か工事が始まってから行っているんですけれども、女性の方もいらっしゃいますね、ヘルメットをかぶつてやつておられる方。とても元気にやつておられるので、少し声をかけて話をしたことがあつたんですけれども、やりがいを持ってやつてみえるんだろうと思いました。そういう学びに活用するという、とても大切ななと思いました。

ほかにもいろいろな校長先生方の御要望等を今お知らせをいただいたものですから、そこについては、事務局長、施設設備のところは教育総務課、それから学校教育課に関わるようなこともいっぱいあったと思うものですから、それをどこの場で話題にしながら進めていくのかということのをちょっと整理していけるといいかと思います。

これ、教育長会で話題にすべきところもあったと思います。例えば入学式とかの日を変えるということについては、市の管理規則を変えていくということで、可児市が考えればいいことかもしれませんが、可茂地区全体のこともありますから、教育長会でどうやっていくのかということもあるだろうし、そして教育委員会だけが考えるだけじゃなくて、校長会や教頭会に下ろしてどう考えるかということで、諮問というのか、意見を聞くということも必要かもしれないなということで、その辺り見通しを持っていく必要があると思いました。よろしくお願いいたします。

○ **教育委員（長井知子君）** おはようございます。よろしくお願いいたします。

私は、昨日、東明小学校と桜ヶ丘小学校の学校訪問に行ってきました。

東明小学校だけではなく、学校訪問に行くと、学校経営構想だとか学校教育目標だとか、資料にしてかちとしたものを配ってくださるんですけども、その中で東明小学校はとても詳しく、校長が自分の言葉で伝えてくださったのが印象的でした。その中で、「笑顔の“もと”」を子供に伝えるのに、自分はチャレンジしてみよう、うまくいなくてもいい、うまくいかなかったらやり方を変えてみようと言われていて、これは大人になっていくにつれて失いがちな気持ちや感情なので、子供の頃からそういったことをそういった視点で教えるのはすごくいいなと思いました。すごく印象的だったのは、校長が「笑顔の“もと”」をすごく深掘りして、自分のものとして捉えていらっしゃるなと思いました。

そのほかは、お話しさせていただく中で、管理職のある先生が来年も東明小学校にいたいと言われていて、管理職の方々が雰囲気すごくよくて、お人柄もすごくいいんだと思います。なので、東明小学校はお任せしていて大丈夫だろうなと感じました。

最後になりますけれども、男性の校長も素晴らしい方いらっしゃいますけれども、東明小学校は昨年も女性の校長で、今年も女性の校長で、女性の校長は信念を持ちつつも、その中に優しさや柔らかさがあってすごくいいなと、これからも女性の校長が出てこれるといいなと思いました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** 大変印象深いお話で、長井委員の話も。

東明小学校の校長は、私、以前からの知り合いでして、太田小学校で教頭を務めていたときに学年主任で大変頑張ってくくださった方で、美濃加茂市の教頭から可児市の校長ということで、可児市の教育について学びながら、さらにもう4月からスタートしてくださっているんですけども、今のお話をお伺いしますと、可児市の理念、教育の理念をきちっと捉えて、誠実にやってくださっているということで、大変うれしくお話を聞きました。

さらには、その彼女が言っている挑戦とか、うまくいかなかったらやり方を変えてやればいいんだという、あの言葉を聞いて、ああ、あの人らしいなと思いますね。太田小学校教諭のときに感じた彼女の生きざま、教師像を見たときに、そうか、彼女がこの言葉を使うととても納得できるなと思って聞いていました。やっぱり「笑顔の“もと”」

というのは、その教師の校長の教育観から導き出されるものなんだろうと思う。だから、説得力があるのだと思いました。

それから、管理職の校長、教頭や幹部の方々、教務主任とか生徒指導とか、その人間関係のよさを感じるというのも本当に安心しますよね。そこが一番かなということは私もいつも思っています。ありがとうございました。

議事

○ **教育長（堀部好彦君）** それでは、議事に入りたいと思います。

○ **事務局長（水野伸治君）** おはようございます。

議案書を御覧ください。

表紙の裏ページ、目次のとおりです。

議案が1件でございます。

議案第14号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、以上1件でございます。よろしく願いいたします。

○ **教育長（堀部好彦君）** 本日議事の議案第14号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、その他の不登校児童生徒の状況について及び児童生徒校内事故、問題行動、交通事故等の記録についてに関しては、個人情報、プライバシーに関する情報のため、教育委員会会議規則第14条の規定により非公開とすることにしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議がないようですので、これらの件については非公開とします。

報告事項

○ **教育長（堀部好彦君）** それでは、報告事項、令和6年度学校給食費の収納状況についてを議題といたします。

○ **学校給食センター所長（後藤道広君）** 学校給食センターから学校給食費の収納状況について報告いたします。

別紙2の資料、令和6年度給食費収入状況を御覧ください。

先月5月末で出納閉鎖となりまして、令和6年度分の収納額が確定いたしましたので、報告させていただきます。

令和6年度の調定額としましては4億9,819万9,900円、収入済額の累計としましては4億9,513万3,065円となりまして、収納率は99.38%となりました。昨年の収納率が99.23%でしたので、僅かですが上昇する結果となっております。

未納額の306万6,835円につきましては、過年度分と合わせまして、引き続き催告や納付相談等を行いまして、適正に債権管理を行っていきたいと思います。以上となります。

○ **教育長（堀部好彦君）** ただいまの事務局の説明について、御質問、御意見等ありますでしょうか。

〔挙手する者なし〕

特に最近新たな傾向というか、収納状況についてというものは特にないということですよ。

- 学校給食センター所長（後藤道広君） 特にありません。
 - 教育長（堀部好彦君） もう日々頑張っているということですよ。
 - 学校給食センター所長（後藤道広君） 児童手当等のほうからいただいたりとか、保護者の方に説明しまして、同意を得てやるようにしております。
 - 教育長（堀部好彦君） 本当に個別の対応大変かと思えますけれども、ありがとうございます。
- ほか、よろしいでしょうか。

〔挙手する者なし〕

特に御意見等もないようですので、この件については報告のとおり、よろしく願います。

各課所管事項

- 教育長（堀部好彦君） 続いて、各課所管事項です。
- 事務局長（水野伸治君） 私のほうからは、6月議会の関係で2点御報告をさせていただきます。

1つ目は、一般質問についてでございます。

今回、2人の議員さんから教育委員会所管分についての質問がありましたので、答弁内容について御報告いたします。

1人目、田上議員のほうから、道路に関する諸課題についてと題する質問の中で、自転車という視点から小・中学校でのヘルメットの着用指導、啓発の状況について質問がございました。

これに対しまして、小学校、中学校ともに交通安全教室や講話などを実施する中で、ヘルメット着用についても指導していると。保護者へは、子供たちへの指導の様子をホームページに掲載したり、学校だよりや入学時のお知らせなどを通じて安全な自転車利用について啓発していることについて回答しております。

続まして、富田議員のほうから、トイレに生理用品をと題しまして、小・中学校の女子トイレ内に生理用品を設置してくださいと質問がございました。

これに対しまして、小・中学校における生理用品の提供は、保健室において、家庭環境の把握ですとか個別に保健指導をしながら手渡しをして提供していること、学校としては、女子トイレを設置することについて、いたずらや不正利用に対する懸念、補充管理などの課題があること、一方、恥ずかしさから生理用品を必要としていることを言い出せない子供への配慮も求められていること、教育委員会としまして、保健室以外で提供するなど、より子供たちの手に届きやすい方法について、今後学校と協議していくことと回答させていただきました。

2つ目が補正予算についてです。

先月の教育委員会会議で議決いただきました学校教育課のICT活用授業における次期校務支援システム導入に係る負担金の追加及び債務負担の設定につきまして、6月16日に開かれました予算決算委員会で、学校教育課長のほうから概要を説明しました。

委員からは、システムの導入により何が便利になるのか、セキュリティは大丈夫か、なぜこのタイミングの補正予算なのかといろんな質問がございましたが、このシステム

につきましては、子供の成績の処理や出欠席の管理、学習指導要領の作成等、多岐にわたる教職員の事務作業が効率的になること、転出入の際の情報管理がスムーズになること、セキュリティについても当然確保していくこと、システム管理運用の開始が来年9月でございますので、導入準備等を考慮しまして6月補正予算の計上と思ったことを学校教育課長のほうから丁寧に説明をいたしました。

補正予算につきましては、明日27日の議会最終日に採決される見込みでございます。私のほうからは以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

○ **教育総務課長（下園芳明君）** 私からは、教育委員の学校訪問についてになります。

先ほど委員の方々から皆さん御報告いただきましたが、今週月曜日、昨日水曜日、天候の悪い中、お願いしましてありがとうございました。

現在、小学校5校、中学校3校、瀬田幼稚園の訪問が終了し、ちょうど折り返しをしたところになります。また、来月7月に3日間予定しているところです。引き続きよろしく申し上げます。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

○ **学校教育課長（木村正男君）** よろしく申し上げます。

前回の教育委員会会議以降の動きについてお伝えします。

まず、6月6日から教育事務所による学校訪問が始まっていて、市の教育委員会事務局も一緒に回っています。各学校を訪問して授業公開もしていただいて、子供たちの様子、先生方の取組も見えています。

昨日までで8校回りました。GIGAタブレット構想（第2期）としての新しいタブレット導入、先ほども話題上がりましたが、本当に使いやすく、インターネットのつながりも非常にいいと好評を得ておりますので、継続していってもらうといいなと思っています。

なお、校長先生方との懇談では、今後進めていく教職員の人事についての情報交換を行っております。

7月11日まで残り8校回る予定でございます。

続きまして、6月21日、先週の土曜日から中体連の大会が始まっております。先週土・日、21日、22日は男女のバスケットボールの予選が行われました。今週末は、28、29日ですが、男女のバスケットの決勝、サッカー、男子バレーボール、野球、女子テニスの大会が行われます。そして、7月5日土曜日は、女子バレーボール、バドミントン、男子テニス、柔道の大会が行われます。12日土曜日は、卓球、剣道の大会が行われます。蒸し暑い日が続いていますので、体調管理に十分留意して大会に臨むように伝えております。

なお、前回に質問があった地域移行の部活の話については、次のときに説明をさせていただくように、文化スポーツ課と共通理解して進めていこうと思っていますので、お待ちください。

続きまして、外国籍児童・生徒のお話ずっと出てきておりますので、情報をお伝えします。

令和7年5月1日現在の外国籍児童・生徒数は906人です。前年度の同時期に比べる

とプラス40人になっています。増加の傾向が続いていまして、国籍別でいくと13か国にまたがって今いる状態です。

本市の総人口が9万9,376人ですから、前年度同時期に比べるとマイナス466人ということ考えると、総人口が減っている一方で外国籍人口が増えているという状況がよくお分かりかと思います。

6月11日、16日には、国際教室に通っている生徒を中心にした進路学習会が行われて、加茂高校定時制、東濃高校、加茂農林高校に見学に行ってきました。本市におきましては、54名の生徒が参加してきて、行ってよかったという感想を聞いております。

なお、今月はありませんが、7月にはばら教室の修了式がございます。もう日にちも決まっています。7月16日の14時からですが、もし御参加可能の方がいらっしゃれば、声をかけていただければぜひ参加くださいと聞いていますので、よろしく願いいたします。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

○ **教育研究所主任指導主事（石黒智子君）** それでは、資料がございますので、御覧ください。

研究所からは3点お伝えしたいと思います。

1つ目は、2ページのほうを御覧ください。

研究・研修についてです。

今年度から県の教科別の研修が、ウェブ型から参集型での何日かに分けての研修が行われるということがありますので、市としての講座を4つに絞ってみました。夏季休業中は、教職員は自己の課題に応じて自己研さんしていただきたいと思っております。

2つ目は3ページです。

これまで学校所員として委嘱された教員が、自ら授業を実践し、研究推進をしてまいりました。今年度は、各学校での研究推進をより活性化するマネジメント力をつけていくということを狙いとします。

そこで、学校所員という名称を授業改善サポートチームといたしました。今年度参加している教員が中心となり、検討した名称です。この名称に込めての願いは、3ページの上の枠内にございます。自分たちの役割を確認する会という趣旨が狙いどおりに行われたと思っています。

3ページの半分から下、そして4ページにかけて、第1回と第2回のサポートチーム会議の内容を記しております。

大学教授からの学びを受けて、今後の実践に生かしていきたいと思えます。

3点目は、4ページの4番にございますが、本日まで令和7年度教科書展示会の開催をしておりますので、御都合がよろしければ、今日までですとお立ち寄りいただければと思います。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

○ **学校給食センター所長（後藤道広君）** 学校給食センターでは、給食の時間の校内放送の中で、給食センターからのお便りとしまして、その日の給食にまつわる放送資料のほうを月ごとに各学校のほうに提供させていただいております。今日は7月分の中から、7月2日放送予定の放送資料を紹介させていただきたいと思えます。

ちょっと、手元に資料がありませんけれども、タイトルは当日の食材で、夏野菜を使います「ナス」がタイトルとなっております。

皆さん、こんにちは。給食センターからのお便りです。

夏野菜のナスがおいしい時期になりました。皆さんは、一富士二鷹三茄子ということわざを聞いたことがありますか。

この3つは、初夢で見ると縁起がいいとされています。日本一の山の富士山、鳥の王者の鷹、次に出てくるのはナスです。ナスが出てくるのはちょっと不思議ですね。これは、ナスが江戸時代の将軍 徳川家康の好物だったことがいわれだそうです。また、ナスという読み方から、事をなすにかけ、物事が順調に進む意味で縁起のいい食べ物とされています。

今日は、可児市産のナスを使ったので、ちょっと苦手という人も食べてみてください。給食センターからのお便りでした。

という具合にして、その日の給食に興味を持って食べてもらえるよう、毎日、日替わりで短い小ばなしにまとめて作成し、学校のほうに提供しています。

ちなみに、今度委員さんたちがセンターにお見えになります7日と11日の給食の日には、それぞれズッキーニと冷凍ミカンというタイトルで放送予定です。

以上、給食センターからの報告でした。

- **教育長（堀部好彦君）** 本当にすばらしい食育を地道にやったださって、ありがとうございました。

各課から報告がありましたが、御質問、御意見ありますでしょうか。

〔挙手する者なし〕

委員からの提案協議事項

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、その他に御質問等もないようですので、次、教育委員からの提案協議事項についてを議題とします。

何かございますでしょうか。よろしかったですか。

〔挙手する者なし〕

その他

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、次にその他に行きます。

次回の日程等です。

- **教育総務課長（下園芳明君）** 次回会議の日程についてですが、7月25日金曜日の午前9時からということですのでよろしくお願いします。場所は市役所5階第1委員会室です。

その次の8月の日程につきましては、現在調整中ですので、よろしくお願いします。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

それでは、よろしくお願いします。

今日もこのまま続けていきたいと思えます。よろしくお願いします。

これより会議を非公開とします。

(以下非公開)

(以上非公開)

閉会の宣告

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、以上で全て終わりましたので、これにて教育委員会会議を閉会します。ありがとうございました。

閉会 午前10時33分